３１　国際芸術祭に対する支援について

（財務省、文部科学省）

【内容】

本県で開催する国際芸術祭は、我が国の文化芸術を牽引し、世界の文化芸術の発展に貢献するとともに、文化資源の活用や地域の活性化に大きく寄与するものであることから、開催年以外に行われる国際芸術祭関連事業を含めて、芸術祭に係る取組全体を継続的に支援すること。

（背景）

○　本県では、3 年に一度「国際芸術祭「あいち」」を開催してきており、2010 年に開催した初回の「あいちトリエンナーレ 2010」から、現代美術と舞台芸術との複合的な展開やまちなかでの展開など、「愛知の独自性」を特徴として展開している。

○　昨年開催した「あいち 2025」でも、世界 22 の国と地域から 62 組のアーティストが参加し、国際色豊かな展示・公演を行うとともに、現代アートを通じて地域の歴史や文化を感じてもらうことで、その地域の魅力も国内外に積極的に発信した。

○　2028 年に 7 回目の開催となる国際芸術祭「あいち 2028」に向けて、海外から芸術監督を迎え、引き続き愛知から世界へ新たな芸術を創造・発信していくとともに、地域に根差したアーティスト、アートコーディネーター等の専門人材を育成・活用し、現代アートの創造・発信拠点の基盤をより強固にしていく。

○　また、国際芸術祭開催年以外の 2026 年・2027 年には、「国際芸術祭「あいち」地域展開事業」として県内の市町村と連携し、次代を担う若手芸術家の展覧会を行い、多くの県民に文化芸術に触れてもらう事業等を継続的に実施することで、本県における文化芸術の裾野を広げ、「あいち 2028」開催への期待感を醸成する。

○　我が国における多様な文化芸術を発信する観点からも、日本国内はもとより、世界の様々な国と地域から多数のアーティストが集い、新たな芸術を国内外に向けて創造・発信するとともに、県内の市町村を始め、文化芸術団体や芸術大学等と連携し開催する、国際芸術祭及び関連事業への継続的な支援が必要である。



国際芸術祭「あいち 2025」　展示風景

ムルヤナ《海流と開花のあいだ》2019-2025

© 国際芸術祭「あいち」組織委員会　撮影：ToLoLo studio

（　参　考　）

国際芸術祭
あいち2025
灰と薔薇の
あいまに

国際芸術祭「あいち 2025」の概要

テ ― マ　A Time Between Ashes and Roses / 灰と薔薇のあいまに
芸術監督　フール・アル・カシミ
（シャルジャ美術財団理事長兼ディレクター、国際ビエンナーレ協会（IBA）会長）
会　　期　2025 年 9 月 13 日（土）～11 月 30 日（日）（79 日間）
会　　場　愛知芸術文化センター、愛知県陶磁美術館（瀬戸市）、瀬戸市のまちなか
主　　催　国際芸術祭「あいち」組織委員会
（会長　大林剛郎（株式会社大林組取締役会長兼取締役会議長））
来場者数　524,069 人
経済波及効果　77.8 億円
主な事業

【現代美術】
・国内外の 54 組のアーティスト作品を展示し、国際色豊かな現代美術を紹介

【パフォーミングアーツ】
・国内外の先鋭的な演劇、ダンスなどの舞台芸術作品を 9 演目上演

【ラーニング】
・誰もが安心して楽しめる環境づくりを目指し、幅広い層を対象とした様々な「ラーニング・プログラム」を実施

【連携事業】
・県内の芸術大学を始め、多様な主体との連携による事業を展開
・参加アーティストによる短期間の巡回展示を県内 4 か所で開催

≪成果の継承≫

国際芸術祭関連事業（2026 年度、2027 年度）

◇目的
次代を担う若手芸術家の発掘・育成等を行うとともに、子どもたちを始め多くの県民に現代美術に触れてもらう地域展開事業を実施し、次回開催への期待感を醸成する

◇2026 年度地域展開事業
会　　期　2026 年 11 月 14 日（土）～12 月 6 日（日）
会　　場　犬山市羽黒地区（犬山市民文化会館・犬山市南部公民館、旧加茂郡銀行羽黒支店復原施設（小弓の庄）ほか）、犬山市役所
内　　容　若手芸術家による現代美術展
出品作家によるワークショップ等

過去の展示風景



撮影　城戸 保

≪若手芸術家等の育成・現代美術の普及≫

国際芸術祭「あいち 2028」の開催（2028 年度）

会　　期　2028 年秋ごろ
会　　場　愛知芸術文化センター他
芸術監督　シャビール・フセイン・ムスタファ
（シンガポール美術館チーフキュレーター）
主　　催　国際芸術祭「あいち」組織委員会